

○棚田を活かしたイベントによる都市住民との交流

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	長崎県東彼杵郡波佐見町 鬼木			
協定面積 28.4ha	田 (81%)	畑 (19%)	草地	採草放牧地
	水稻	茶		
交付金額 546万円	個人配分			49%
	共同取組活動 (51%)	棚田まつり		17%
		水車整備		12%
		法面等の管理費		6%
		研修会費（全国・県棚田サミット参加）		6%
		イノシシ防護柵設置・補修		3%
		役員報酬		3%
		消耗品（草刈刃等）の購入		2%
		体験農園に係る賃借料		1%
	事務費等			1%
協定参加者	農業者49人			開始：平成12年度
人・農地プランの作成状況	集落全域で作成済み			

2. 取組に至る経緯

高齢化による担い手不足が懸念される中で、棚田を維持していくことを目的に1期対策から取り組んでいる。1期・2期対策では、棚田保全のための共同活動に注力するほか、毎年9月に「鬼木棚田まつり」を行い、都市部住民と交流する中で、協定参加者は次第に集落に誇りと自信を持てるようになった。棚田まつりの来場者は、年々増えてきており、町の中でも大きなイベントになっている。

なお、当地区の棚田は全国棚田百選に選出されている。

3. 取組の内容

棚田まつりでは、枝豆の収穫体験や100体を超える案山子の展示、鬼木みそなどの地元産品の加工品の販売、棚田ウォークラリー等が行われ、多くの観光客で賑わう。また、まつり終了後も案山子の展示が続けられるため、しばらくは見物客が絶えない。

棚田を守る活動として、既耕作放棄地の管理や防護柵によるイノシシ被害対策、水路・農道の草刈、農地周辺山林の下草刈、堆肥の施肥を行っている。



【集落内の棚田の風景】



【鬼木棚田まつりの様子】

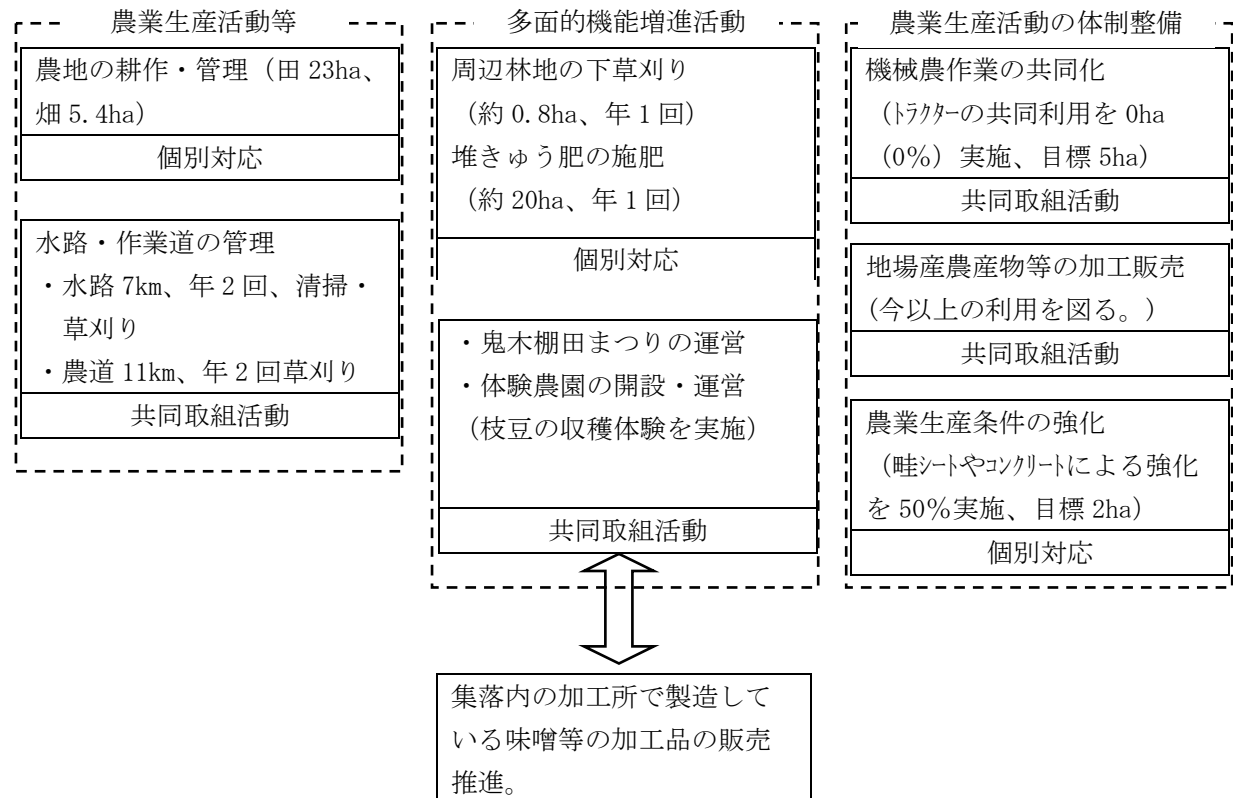
〔集落の将来像〕

- 当集落では、高齢化、過疎化による担い手不足から耕作放棄地の発生及び増加が大きな懸念材料であり、将来も当集落においては担い手の確保は難しい状況にある。ただし、農地保全に対する意識は潜在的に高いものがある。平成12年から始めた「鬼木棚田まつり」を契機として、棚田を活用したイベント等により都市住民との交流により生まれる、農家の活気により「故郷を愛する心の醸成」をモットーに、中山間地の保全体制の整備を図る。



〔将来像を実現するための活動目標〕

- 草刈等による棚田の保全や、地元加工所の推進、畦畔の整備、農業機械の共同化を図り、棚田の保全に努め、棚田まつりを開催し都市住民を呼び込む。



4. 今後の課題等

棚田まつりの運営や草刈等の共同活動により地域コミュニティーが形成され、連帯感が強まっている。また、棚田へ多くの見物客が来ることにより、農地や風景に対して誇りや自信に繋がっている。

当面の課題は高齢化への対応であり、集落を引っ張る若手の育成が急務である。

〔第 2 期対策の主な成果〕

- 地場産農産物等の加工・販売の開始
- 認定農業者1名の育成
- 都市住民との交流による地域の活性化
棚田まつりの参加者の増（H17：4,000人→H21：5,000人）